

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年4月19日(2018.4.19)

【公開番号】特開2018-473(P2018-473A)

【公開日】平成30年1月11日(2018.1.11)

【年通号数】公開・登録公報2018-001

【出願番号】特願2016-130590(P2016-130590)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/532 (2006.01)

A 6 1 F 13/49 (2006.01)

A 6 1 F 13/56 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 13/532 2 0 0

A 6 1 F 13/49 1 0 0

A 6 1 F 13/56 2 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月9日(2018.3.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前身頃と股下部と後身頃とが長手方向にこの順で設けられ、
吸収体を有する吸収性物品であって、
少なくとも着用者の股下に配置される前記股下部において、前記長手方向に延びて前記
吸収体に設けられた一対の溝状部と、
前記吸収体において、前記溝状部の設けられた第一吸収体部と、
前記後身頃に幅方向に突設された止着テープと、
前記止着テープが止め付けられ、前記前身頃の最も非肌面側に貼着されたフロントパッ
チと、
少なくとも前記股下部において、厚み方向において前記吸収体と重なる位置であって、
前記フロントパッチの前記股下部側端部から前記後身頃側へ前記長手方向に延びて設けら
れ、伸張状態で貼り付けられた一対の弾性部とを備えた
 ことを特徴とする吸収性物品。

【請求項 2】

前記吸収体において、前記溝状部の延びる方向に沿って前記溝状部を仮想的に延長した
領域を含み、前記第一吸収体部よりも目付量の小さい第二吸収体部を備えた
ことを特徴とする請求項 1 に記載された吸収性物品。

【請求項 3】

前記第一吸収体部は、前記吸収体において前記長手方向の中央に配置された
 ことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載された吸収性物品。

【請求項 4】

前記第二吸収体部は、前記第一吸収体部に対して前記長手方向の一侧に配置された
 ことを特徴とする請求項 2 に記載された吸収性物品。

【請求項 5】

前記第二吸収体部は、前記第一吸収体部に対して前記長手方向の両側に配置された

ことを特徴とする請求項 2 に記載された吸収性物品。

【請求項 6】

前記第二吸収体部は、前記第一吸収体部よりも厚み方向の寸法が小さいことを特徴とする請求項 2 に記載された吸収性物品。

【請求項 7】

前記第二吸収体部は、前記第一吸収体部よりも密度が低いことを特徴とする請求項 2 に記載された吸収性物品。

【請求項 8】

前記溝状部は、前記吸収体の圧搾により形成されてなるものであることを特徴とする請求項 1 ～ 7 の何れか 1 項に記載された吸収性物品。

【請求項 9】

前記弾性部は、前記一对の前記溝状部よりも幅方向外側に配置されたことを特徴とする請求項 1 ～ 8 の何れか 1 項に記載された吸収性物品。

【請求項 10】

前記フロントパッチは、前記第二吸収体部の少なくとも一部分に重なるように積層されたことを特徴とする請求項 2 に記載された吸収性物品。

【請求項 11】

前記吸収体の肌面側に積層されたトップシートを備え、
前記トップシートに前記溝状部が設けられたことを特徴とする請求項 1 ～ 10 の何れか 1 項に記載された吸収性物品。

【請求項 12】

前記溝状部が、前記トップシートを積層した前記吸収体の圧搾により形成されてなるものであることを特徴とする請求項 11 に記載された吸収性物品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

このサポートギャザー 31 は、一对設けられ、それぞれ第一弾性部材 41（弾性部、図 1 では二点鎖線で示す）によって形成される。

第一弾性部材 41 は、サポートギャザー 31 と同様に、股下部 1B の領域内において、平面視で少なくとも一部がマット 12 と重なる位置に、エンボス部 20 よりも幅方向外側に配置され、長手方向に沿って設けられる。ここでは、エンボス部 20 と平行に第一弾性部材 41 が配置される。

この第一弾性部材 41 は、長手方向にマット 12 を収縮させるように設けられる。具体的に言えば、バックシート 13 とカバーシート 14 との間に第一弾性部材 41 が介装され、これらのシート 13、14 と伸張状態の第一弾性部材 41 の少なくとも股下部 1B の範囲内に位置する部分とが糊付けや縫合などによって互いに固定される。そのため、第一弾性部材 41 の収縮方向への弾性力によって、シート 13、14 が皺寄せられ、マット 12 が長手方向に収縮させられる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

上記したサポートギャザー 31 のほか、立体ギャザー 32 およびレッグギャザー 33 も

紙おむつ 1 に設けられている。

立体ギャザー 3 2 は、排泄された液体が幅方向外側に漏れることを防ぐために設けられる。この立体ギャザー 3 2 では、サイドシート 1 0 の幅方向内側端縁部が第二弾性部材 4 2 (図 1 および図 2 では密破線で示す) によって肌面側に立設されるとともに皺寄せられる。

レッグギャザー 3 3 は、着用者の脚部への追従性を高めるために設けられる。このレッグギャザー 3 3 は、幅方向に突出しており、サイドシート 1 0 の幅方向外側端縁部、カバーシート 1 4 の幅方向外側端縁部およびバックシート 1 3 の幅方向外側端縁部が第三弾性部材 4 3 (図 1 では疎破線で示す) によって皺寄せられる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

マット

ところで、マット 1 2 は、股下部 1 B および後身頃 1 C に配置される第一マット部 1 2 1 (第一吸収体部) と、前身頃 1 A に配置される第二マット部 1 2 2 (第二吸収体部) とに大別される。これらのマット部 1 2 1、1 2 2 は長手方向に隣接している。

股下部 1 B に配置される第一マット部 1 2 1 には、エンボス部 2 0 が設けられている。これに対し、第二マット部 1 2 2 には、エンボス部 2 0 が設けられていない。しかし、エンボス部 2 0 をその延在方向 (エンボス部 2 0 の延びる方向) に沿って仮想的に延長した領域 (以下「延長領域」という) R は、第二マット部 1 2 2 に含まれる。言い換えれば、エンボス部 2 0 での折れ目が拡がりうる延長領域 R が第二マット部 1 2 2 に含まれる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

そこで、第二マット部 1 2 2 での折り曲がりに対する抗力の抑制によってエンボス部 2 0 による股下部 1 B の所定形状への折り曲げを確実にするために、本件のマット 1 2 は、領域 (部位) ごとに目付量が調整されている。

具体的に言えば、第二マット部 1 2 2 の目付量は、第一マット部 1 2 1 の目付量よりも小さい。

たとえば、第一マット部 1 2 1 よりも第二マット部 1 2 2 における成形材料の積層量を少なくすることで、マット部 1 2 1、1 2 2 の目付量を調整することができる。この場合には、第二マット部 1 2 2 のほうが、エンボス部 2 0 を除く第一マット部 1 2 1 よりも厚み方向の寸法が小さくなる。